

1年生なりに関数的な見方・既習を活用する考え方を育てる

…4年の「わり算のきまり」と同様に、1年の「ひき算のきまり」として扱う…

計算カードを使って、計算の答えを正確に求めるドリルに取り組みさせるだけでなく、それを並べて観察し合う活動を通して、関数的な見方の素地を育てることが大切です。

＜問題例＞

こたえが 4 になる
すうじを あつめまし
ょう。

＜見通し＞

◇直感で自由に…
7-3=4 9-5=4
10-6=4 12-8=4

ポイント:1

◇落ちや重なりについて意識させる。
「全部で何通り？」と問う

ア:10までの範囲で確認

10-6=4
9-5=4
8-4=4
7-3=4
6-2=4
5-1=4
4-0=4

イ:被減数を大きくして確認

21-17=4
20-16=4
19-15=4
18-14=4
17-13=4
16-12=4
15-11=4
14-10=4
13-9=4
12-8=4
11-7=4

ポイント:2

◇きまりが見えるようにするためには、バラバラのものを「順序よく並べて観察する」というスキルを教授する。

ポイント:4

◇大きな数に発展させることを意識する。

ポイント:3

◇関数的な考え方を身につけさせることを意識する。

「ひき算のきまり」

ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、同じ数をたしても、答えは変わらない。

【既習を活用する考え方】

＜例＞13-9という問題に出合った際

$$\begin{aligned} 13-9 &= (13-3) - (9-3) \\ &= 10-6 \\ &= 4 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} 13-9 &= (13+1) - (9+1) \\ &= 14-10 \end{aligned}$$

ポイント:5

◇ひき算のきまりを使えば、計算が簡単になるという経験をさせる。

【中学校につなぐ考え方】

□-□=4の式で、4-0=4で終わりにせず、被減数がさらに1少ない3の場合、3+1=4と、たし算になることに気付かせたい。 *□-(0-1)=□+1

ポイント:6

◇負の数の計算の仕方の考え方へと学習がつながるよう意識する。

「理想とする振り返り（算数の宝）」

- ひかれる数とひく数を1ずつ増やしていくと、どんどんと大きな数の計算でもできるよ。
- ひき算のきまりを使うと、繰り下がりの無い簡単な式になって、楽に計算ができるよ。
- 繰り下がりのあるひき算が合っているかどうか、(ひき算で)簡単に確かめられるよ。